

80116  
6

教科書文庫

6
420
34-1950
01304 49641

C Y M

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

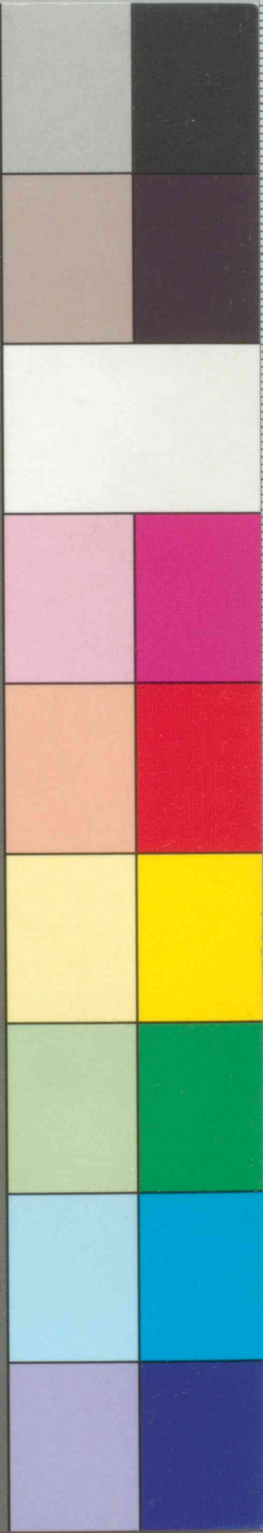
© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1

文部省検定済教科書

# よいこのかがく 二ねんの上

5 5  
広 図 小理 211



TIA7  
4L0  
55

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

# よいこのかかく 二ねんの上

## も く じ

### 1 春と いきもの

- (1) 春の のやま.....(2)
- (2) 春の たねまき.....(6)
- (3) 鳥と ひな.....(8)

### 2 からだを じょうぶに

- (1) よ い は.....(12)
- (2) よ い 目.....(15)
- (3) よぼうちゅうしゃ.....(16)
- (4) じょうぶな からだ.....(17)
- (5) シーズーあそび.....(18)

### 3 つゆの ころ

- (1) あめふり.....(20)
- (2) つゆあけ.....(22)

### 4 たのしい夏

- (1) ほかけぶねと 水ぐるま.....(26)
- (2) 海や 川で とれる いきもの.....(30)
- (3) 夏 の 虫.....(34)
- て び き.....(39)

広島大学図書

0130449641



新科学教育研究会著

# 1 春といきもの

## (1) 春の のやま

「あき子さん、つみくさに いきましょう。」と、よしおくんが さそいに きました。

ふたりは よろこんで のはらへ でかけました。

のはらは すっかり みどり色に かわっています。

あたたかく なったので、くさが めを だしたからです。すみれや れんげの花も さいて、とても きれいです。

ふたりは、きれいな花や くさを たくさん つみました。

うちへ かえって しらべると、ちがった花や くさが 八どおり ありました。そ

の 花や くさは、おかあさんに なまえをおききしてから、ふるい本にはさんで おきました。



にちようびに、山へ わらびどりに いきました。

よしお「山は、のはらと ちがって、木が たくさんあるね。

あの木は あおあおとした はが あるのに、この木は めが ではじめた ばかりだね。あ、あそこに つつじが きれいに さいているよ。」

あき子「山には、れんげそうは ないのね。」

よしお「そのかわり、いたどりや わらびが でているよ。」

あき子「山と のはらでは、くさも ちがっているわね。」

ふたりは、こんな 話を しながら、わらびを さがして、もりや はやしの中を あるきました。はやしの中では、いろいろな 小鳥が きれいな声で なっていました。

ふたりは、とってかえった くさや 花で、はこにわをつくりました。

わらびや ぜんまいは、ゆうごはんの おかずにして いただきました。



たんぽぽ      ほうこぐさ      はこべ      きつねのぼたん

よしおくと あき子さんは、のはらや 山で とったものや、みたことを、かいて おきました。

たんぽぽ……たんぽの みちの あちこちに、きいろな花がさいていた。

ほうこぐさ……たんぽの あぜに たくさん あった。はに、わたの ようなものが ついている。おもちについて、たべるそうだ。

はこべ……はたけの すみに むらがって はえていた。やわらかい はを ひよこに やった。

すずめのとっぼう……たんぽに たくさん はえていた。ほを めいて ふくと、ぴいぴいとなった。

なずな……はたけに はえていた。花は とても 小さい。みが たくさん ついていた。

きつねのぼたん……たんぽの みぞの そばに はえていた。みは こんぺいとうの ようだ。



あざみ      なずな      たねつけばな      すずめのとっぼう



しゅんらん      ぜんまい      わらび

あざみ……どての くさむらに あった。大きな はに、たくさんの とげが ある。

たねつけばな……たんぽの ふちに あった。白い 花がさいていた。

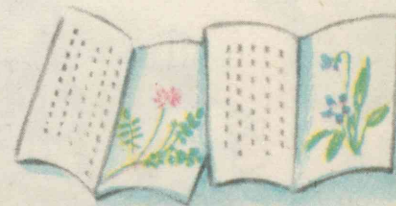
しゅんらん……はやしの中に、うすい きみどりの花が さいていた。とってかえて、にわに うえた。

わらび……山の あちこちに、たくさん はえていた。やわらかそうなのを とってかえた。

ぜんまい……ぐるぐるまいて わたを かぶっていた。わらびと いっしょに とってかえた。

いたどり……ふもとの くさむらに はえていた。すっぱい あじがする。ふどいのは 水ぐるまにした。

つつじ……山の あちこちに さいている。



いたどり      つつじ      かし



(2) 春の たねまき

あたたかい 日がつつき、わかめがぐんぐん のびて いきます。きょうは、がっきゅうえんの たねまきです。はじめに、みんなで、しごとの じゅんを きめました。

—しごとの じゅん—

- つちを うちかえして、こまかく くだく。
- こやしを いれて、まきどこを 作る。
- ゆびで あなを あけ、たねを まく。



へちまのたね



(まきかた)

	ま く ふ か さ	たね と たねの あいだ
へ ち ま	1 センチメートル	1 メートル
ど う も ろ こ し	1 センチメートル	50 センチメートル

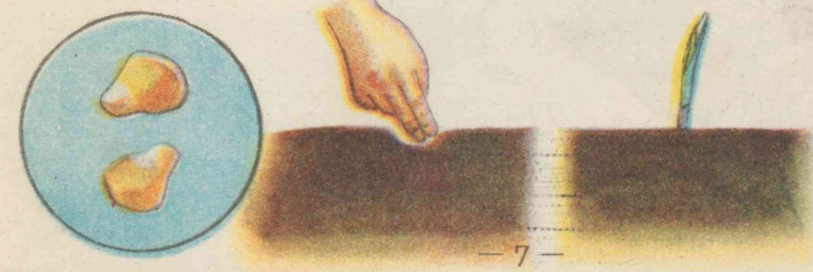
○ たねの上に つちを かける。

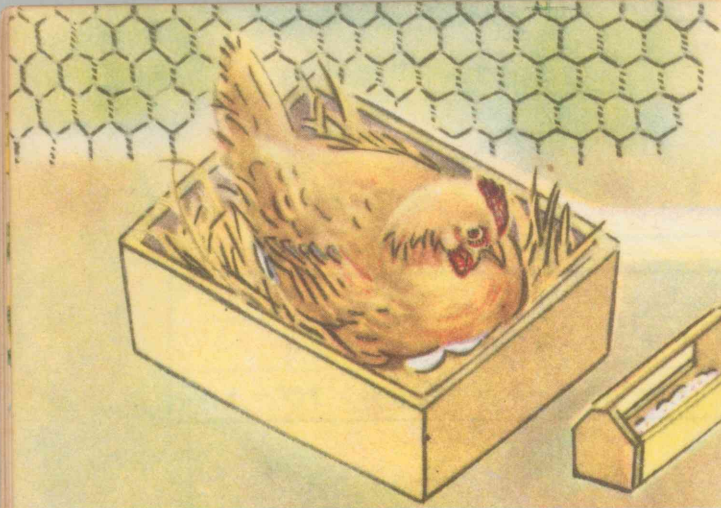
「たねが めを だすには、しめりけや あたたかさが いります。」と、先生が いわれました。

なん日ぐらいで、めが てるでしょう。めが たら、大きくなっていく ようすを、えにききにつけましょう。りっぱな 花や みがつくようにくさとりを したり、水や こやしを やりましょう。



どうもろこしのたね





### (3) とりと ひな に わ とり

とし子さんのうちでは、めんどりが すに つきました。おとうさんが おいれになった たまごを、あたためて います。とし子さんは、めんどりが たまごを あたためる わけを、おとうさんに おたずねしました。おとうさんは、

「たまごは、あたためないと ひよこにならないからだよ。ちょうど、春 あたたかくなると、木の めが てるようなものだ。たまごを、からだで あたためると、ひなに かえるのだ。ひなは、21日ぐらいで かえるよ。」と いわれました。

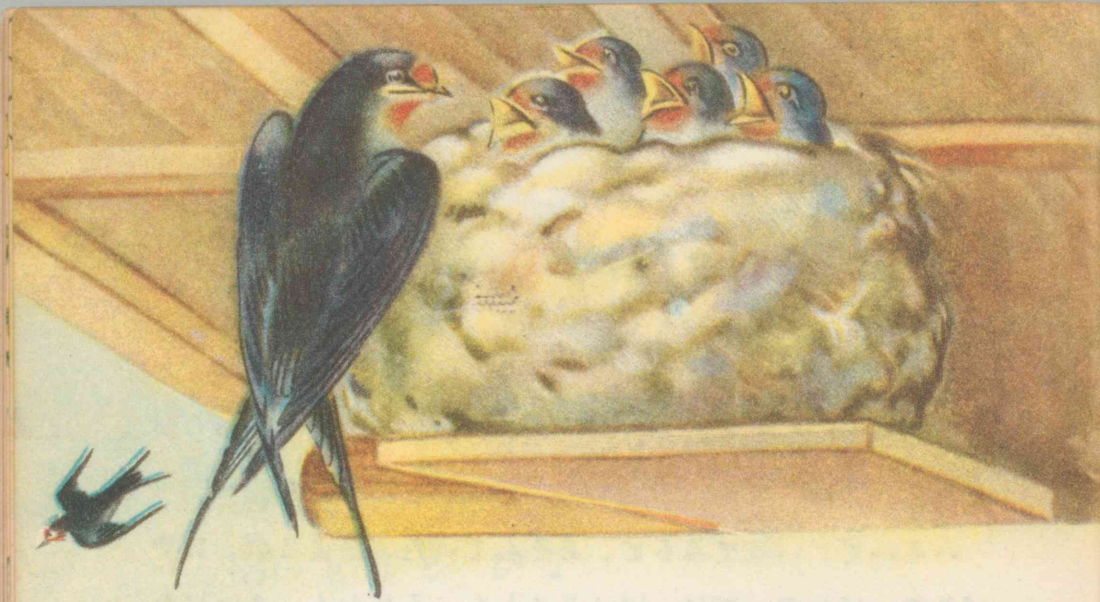


わたくしたちが、めんどりの そばへ いったり、音を たてたり すると、けを 立てて、「こ こっ、ここ」と なきます。

学校から かえったら、おかあさんが、「とし子、ひなが できたよ。2わ でている。」と おっしゃいました。

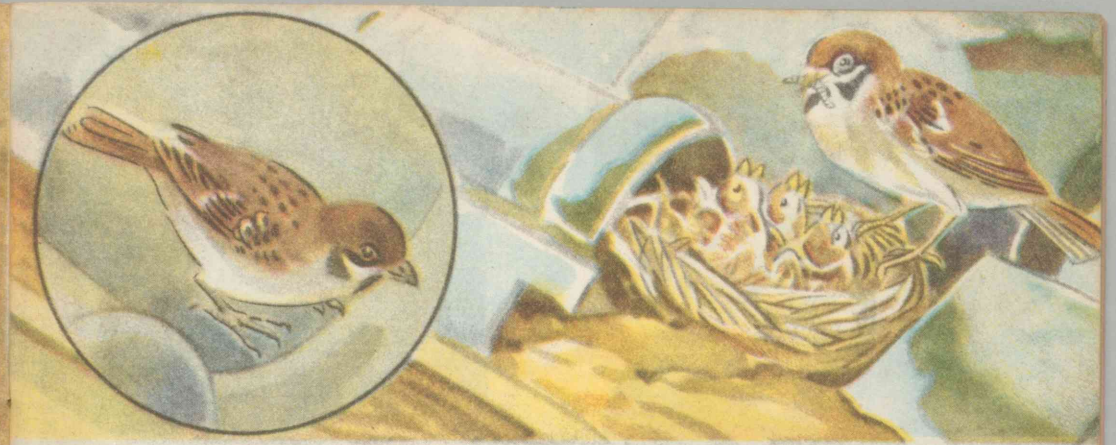
いそいで いってみると、あそんでいた ひよこが、おやどりの はねの 下にはいりました。それから、まいにち ひよこを みました。えさを やると、おやどりは、「ここ、ここ」と、ひよこを よんで、つついて たべて みせます。ひよこは、おやどりの 口のところへ よってきて、小さなくちばしで、じょうずに えさを ひろいます。はこべをとってやると、よろこんで たべます。これから、ひなの えさや、ひなが だいすきな くさなどを しらべたり、大きくなって いく ようすも しらべたい と おもいます。





### つばめ

のきさきに、つばめがすをつくりました。すは、つちや、わらなどでつくっています。おやつばめは、ひながかえると、いそがしそうにえさをくわえてかえって、ひなにたべさせます。にいさんが、「つばめは、五つ、六つ、たまごをうんで、あたたため、2しゅうかんぐらいで、ひなをかえす。ひなは、3しゅうかんぐらいですだちをする。とびはじめには、おやつばめが、子つばめをたすけながら、とぶけいこやむしをとるけいこをさせる。つばめがひとりだちするには、ひと月はんぐらいかかる。大きくなった子つばめは、9がつごろ、おやつばめや、ほかのなかまといっしょに、あたたかい南の國へいくのだ。」といいました。



### すずめ

すずめのひなが、かえたようです。やねがわらのあいたに、おやすずめが、でたりはいたりしています。ひなに、えさをはこぶのでしょう。

はしごをのぼって、そっとかわらをあげてみました。ひながかえています。すの中のひなは、えさをくるとおもったのでしょう。大きい口をあけて、さわぎたてました。

すずめのすは、つばめのとちがっていて、はねげやわらなどで作っています。つちはつかっていません。鳥がちがうと、すを作るばしょや、作りかたもちがいます。つばめやすずめをかわいがってやりましょう。

月日	てんき	えにっき	
4月10日	はれ		<p>がっこうからかえりにつばめがはたけの上をとんでいるのを見ました。わたくしはつばめがもうわたってきたなどおもしろい。</p>



## 2 からだを じょうぶに

### (1) よ い は

みち子さんは、むしばが いたむので、はいしゃさんの 手あてを うけました。

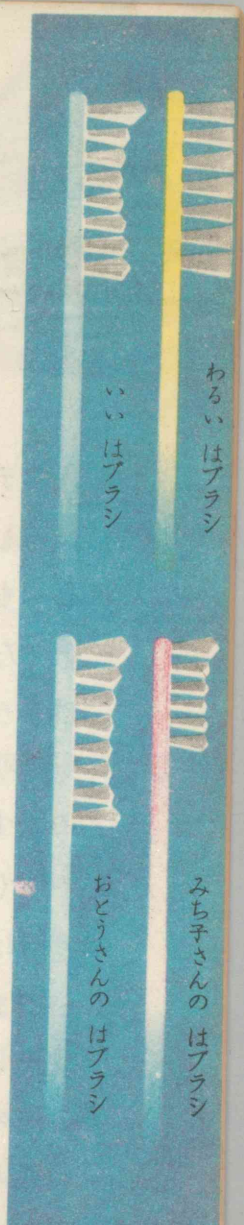
手あての あとで、はいしゃさんが、むしばの ことについて、話をして くださいました。

「たべものの きれはしは、はのあいだに はさまって のこります。それを、長いあいだ のけなっていると、はの あいだで くさります。くさると、すっぱい すの ような ものが できます。その すの ようなものに はが とか されると、むしばになります。だから、はを みがくのは、 あさと ばんの 2かいが いいのです。

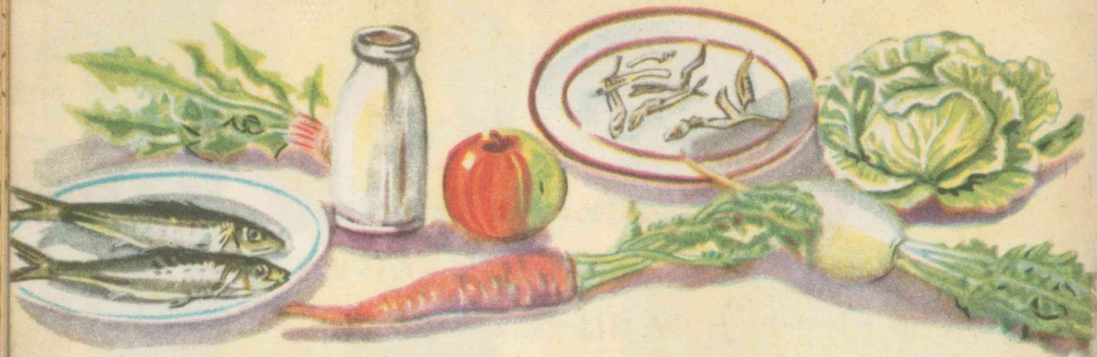
みち子さん、あなたの はは、もう 8本 はえかわって、 おとなの はに なっています。おとなの はは、もう はえ かわらない たいせつな はです。よく きをつけましょう。

はは、たべものを はじめに こまかくする やくめを します。これは、からだに たいせつ な やくめです。5月4日は ごしデーですね。いつも このきもちで、氣を つけて、じょうぶな はに しましょう。」

みち子さんが、「どうすれば、じょうぶな はに なりますか。」とおききすると、はいしゃさんは、「お日さまに よく あたると、はがじょうぶに なります。また、むしばに しないように、はを よく そうじしなさい。はみがきブラシは、小さいブラシが いいのです。おとなのは、大きすぎて、よく みがかれません。ブラシの中では、けのさきに 小さい でこぼこの あるのが いいのです。」と いわれて、右の えの ような いい はブラシと わるい はブラシとを みせて くださいました。







みち子「はを じょうぶにする おくすりが ありますか。」  
はいしゃさん「おくすりもあります。けれど、それよりは、  
たべものを すききらい しないで、なんでも たべること  
が たいせつです。いりこや、こざかなや、やさいななどは、  
はを じょうぶにするのに いい たべものです。」

いりこは、あたかも ほねも かねで たべるのが いい  
のです。大きいのは、すこし やいて、こなにすると たべ  
やすくなります。

はは、一ど はえかわると、二どと はえかわりません。  
いつまでも つかうものですから、できるだけ じょうぶに  
しましょう。」

このお話を きいている あいだに、みち子さんの はの  
いたみも とれました。みち子さんは、はいしゃさんの お  
話のようにして、はを じょうぶにしようと思いました。

そして、まい日、はみがきにつきを かいて、おかあさん  
に みて いただくことに しました。



## (2) よ い 目

よくみえる よい目は、きれいで、びょうきが ありませ  
ん。目の びょうきには、トラホームや、けつまくえんが  
あります。どちらも、うつりやすい びょうきです。

きょう、目の けんさが ありました。はいしゃさんは、  
「ハンカチを 人から かりて つかうと、目の びょうき  
が うつることが あります。きたない手で 目を こする  
と、目の びょうきに なりやすい ものです。」

ごみや ほこりの おおいところへ でいりした とき  
には、あとで、きれいな水で 目を あらいましょう。

つよい光を まえから うけたり、くらいところで 本を  
よんだりすると、目を わるくします。なるべく、左うしろ  
から くる光で、よみかき しましょう。」といわれました。





### (3) よぼうちゅうしゃ

みなさんは、いままでに、よぼうちゅうしゃをうけたことがありますか。よぼうちゅうしゃは、わるいびょうきをふせてくれるのです。みなさんが、これまでにうけたよぼうちゅうしゃのことについて話しあってみましょう。まさお「ぼくはうえぼうそをしました。」

みち子「わたくしは、そのほかにジフテリアのちゅうしゃもうけました。」

やす子「わたくしのうちのちかくに、よぼうちゅうしゃをしないで、チフスになった人がいます。わたくしは、ちゅうしゃをうけていたので、かかりませんでした。」

先生「よぼうちゅうしゃは、わるいびょうきを、はやらないようにし、わたくしたちのからだをまもってくれるものですから、かならずうけましょう。」

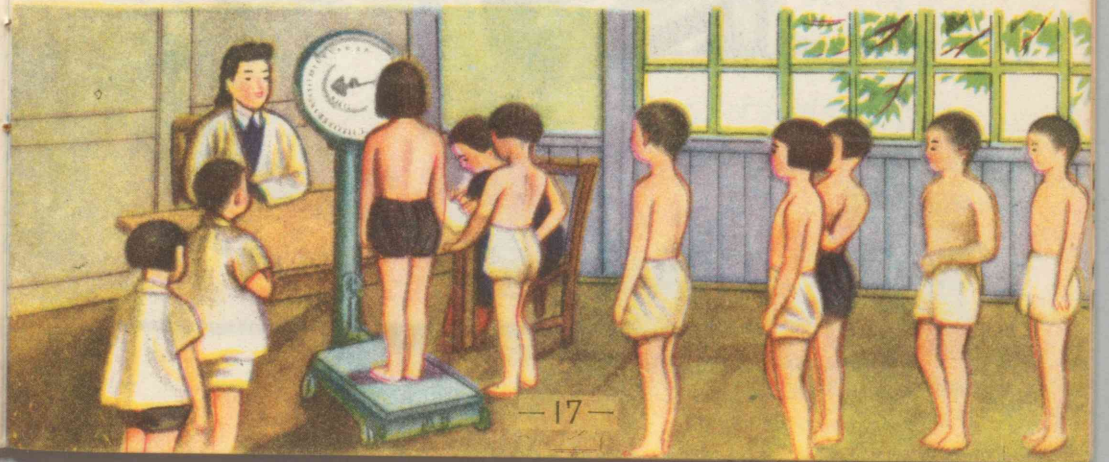
### (4) じょうぶなからだ

わたくしたちのからだは、じょうぶにそだっているかどうかは、たいじゅうをはかると、たいがいわかります。

だから、じぶんのたいじゅうがふえていくか、どうかをしらべるのは、だいじなことです。これから、まい月、たいじゅうのふえるようすを、ひょうにかいてみましょう。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
たいじゅう												
ふえる○												
へる×												

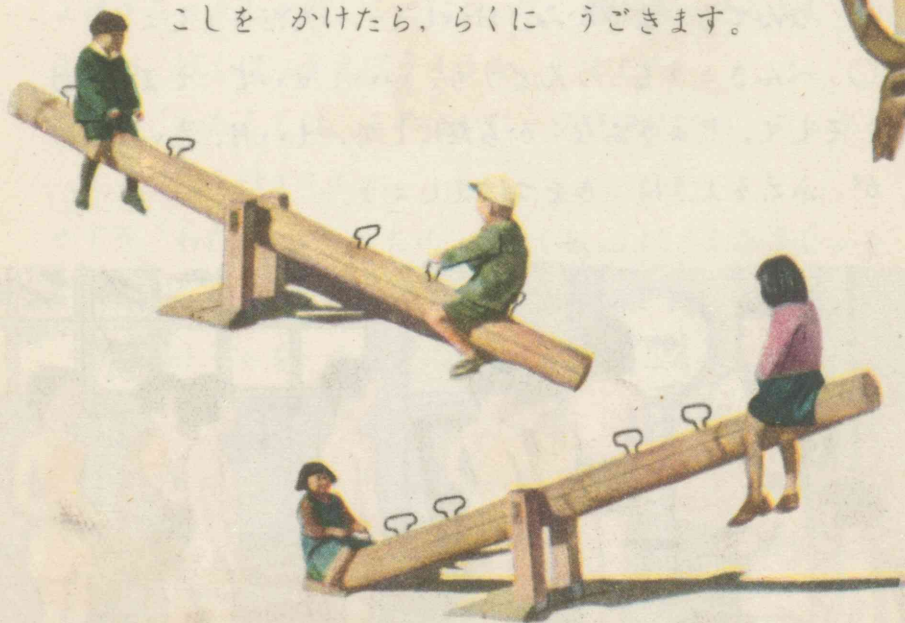
- はやね、はやおきをまもり、ひなたであそびましょう。
  - なんでもよくかみ、おいしくいただきます。
  - べんきょうもうんどうも、いっしせいでしましょう。
- そして、じょうぶなからだにして、まい月、たいじゅうがふえるようにきをつけましょう。





(5) シーソーあそび

シーソーあそびを しましょう。けがを しない  
 ように きを つけて、さあ、はじめは、おなじく  
 らいの 大きさの ふたりで やってみましょう。  
 だいのまん中から、おなじ めもりの ところに  
 こしを かけたら、らくに うごきます。



ひとりが、一めもり まえへでたら、シーソー  
 は うごかなくなりました。もうひとりが、一  
 めもりほど まえへ  
 でたら、うまく うご  
 くように になりました。

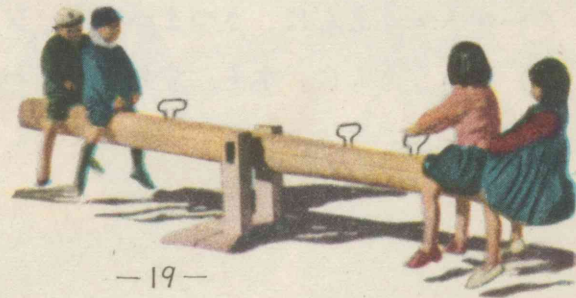


ひとりが だいのはしに こしを かけました。  
 どうしたら  
 いいでしょう。



一方に ふたり のったら、うごかなくなりました。  
 どうしたら いい  
 でしょう。

ふたりの方が、まえへ でてみましょう。  
 ひとりの方に、もうひとり のって、ふたりずつに なっ  
 てみましょう。  
 一方に、三人 こしを かけました。どうすれば うごく  
 でしょう。





### 3 つゆのころ

#### (1) あめふり

くもりや 雨の日が おおくなりました。なにも かも じめじめして きました。

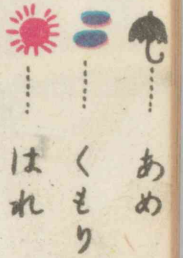
雨で ふえた いけや 小川の水を、たんぼに ひいて、 あちら こちらで、たうえが はじまりました。はたけには さつまいもを うえています。

じゅうぶんな 水と、お日さまの あたたかさで、いねも さつまいもも、ぐんぐん 大きくなって いきます。

- 学校で、いねの なえを そだてて みましょう。
- 学きゅうえんに、さつまいもの なえを うえましょう。
- 大きなさらに、水を すわせた わたをいれ、もみを まいて、きょうしつで そだてましょう。

### おてんきひょう

日	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
よ う	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
てん き	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☀	☀	☁	☁	☀	☀	☁



○ さつまいもの なえも、水を すわせた わたの 上に のせておいて、わかい ねや、あたらしい めが のび ていく ようすを しらべて みましょう。

まさ子さんの くみでは、「おてんきひょう」を きょう しつに はって、まいにち、てんきを えで かきいれています。つゆの ころは、雨の日が おおいことが、その ひょうで よくわかります。

たべものが くさりやすく、きものや くつなどに、いろ いろな かびが よくはえます。しめりけが おおく、あたたかいので、かびが よく そだつのです。たべものは、よく にて、ばいきんを ころしてから たべましょう。





## (2) つゆあけ

空を ごらんさい。にゅうどう雲が できました。むくむくとした 雲の 山は、あお空 たかく のぼったり、よこに ひろがったり、かたちが いろいろに かわります。にゅうどう雲は 夏の雲です。この雲が ではじめると、つゆは おわりに なります。

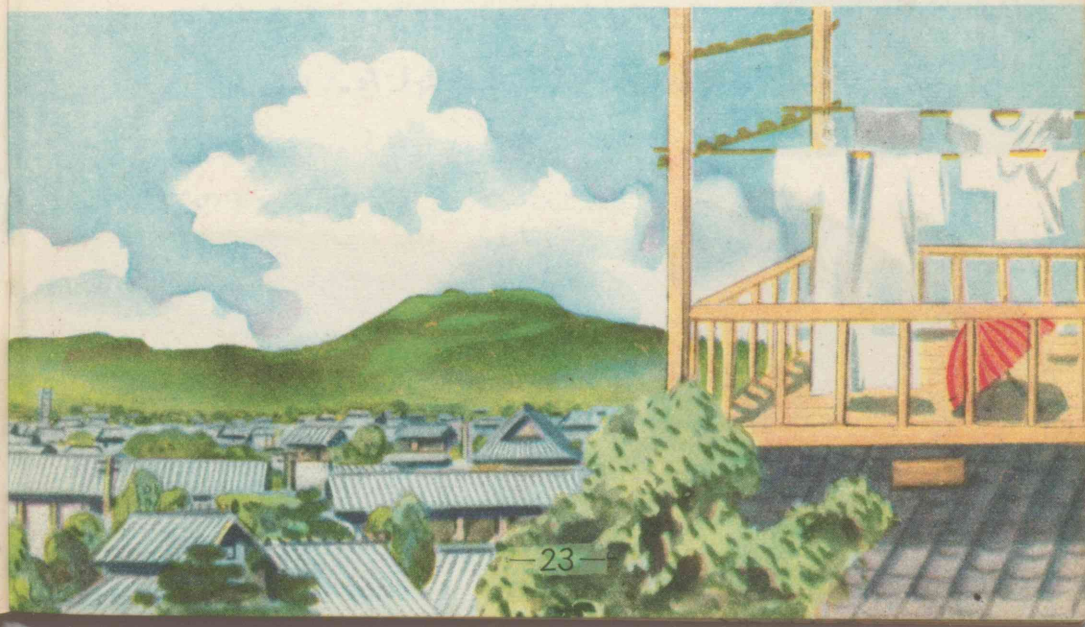
おてんきに なった日、おかあさんは せんたくものや、はきもの あまぐなどを おほしになりました。どこのうちでも、いろいろなものを たくさん かわかしています。夏は、お日さまのひかりが つよいので、ものが たいへん よく かわきます。



ものほしは、どんな ところが いいでしょう。よし子さんの うちの ものほしは、せんたくやさんと おなじように、やねの 上にあります。おにわでも、お日さまと 風が よく あたるところが いいのです。おかあさんも、「日に あたるだけでなく、風が あると、ぬれたものが いっそう よく かわきます。」と おっしゃいました。つくえの上を、ふたところ 水で ぬらしておき、一方だけを うちわで あおいで ごらんさい。どちらが はやく かわくでしょう。

くろくなった にゅうどう雲の 下の方で、いなびかりが しましたが、ひかっただけで、音は きこえませんでした。これは、とおいところの かみなりです。

つゆが おわると、かみなりも おおくなります。





4



3



2

ゆうがた、おにわにいた おとうさんが  
大声で、まさおくんをおよびになりました。

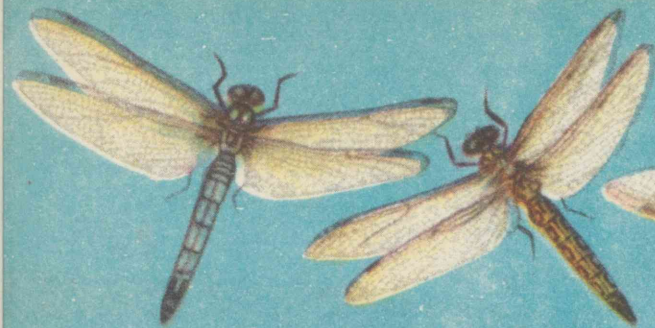
まさおくんは、走って おとうさんのと  
ころへ きました。おとうさんは、手の上  
に ちゃ色の せみの子を のせて、にこに  
こしながら、

「これは、なんだね。」と おっしゃいまし  
た。

「せみの子でしょう。」まさおくんは、そっ  
と さわって みましたが、せみの 子は  
じっと していました。

「おとうさん、どこに いたの。はねは ど  
こから てるの。」

「ああ、それはね。」と 言って、おとう  
さんは、せみの子が、おやに なるまでの お  
話を してくださいました。



しおからとんぼ

むぎわらとんぼ



やんま

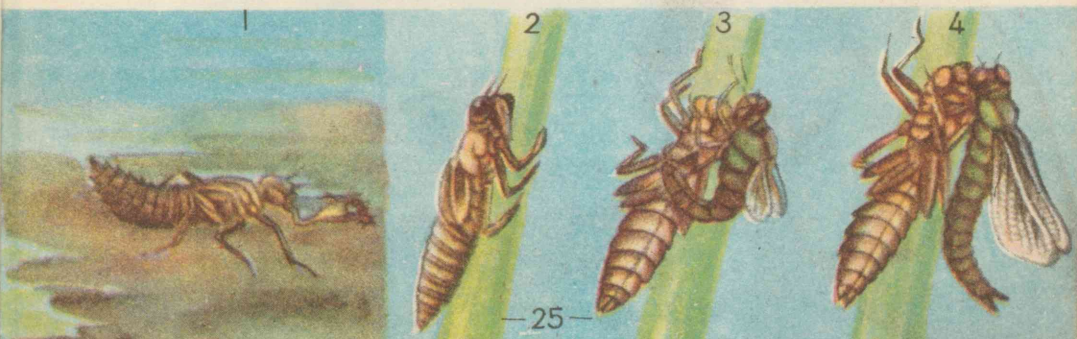
「せみの子が、つちの中で うまれたのは、だいぶん まえ  
のことで、おまえが うまれた ころだった かもしれない。

そんなに 長いあいだ、つちの中で くらすのだが、ゆう  
がた、じめんに あなを あけて はいだし、ちかくの 木  
などに のぼる。目が くれると、からを ぬぎ はじめ、  
「じかん ぐらい かかって、おやせみが でてくる。

まだ、ほかに いる かもしれないから、さがしてごら  
ん。」

まさおくんは、「せみは おもしろい虫だなあ。」と、お  
もいながら さがしました。

とんぼも、せみと おなじように、からを ぬいで おや  
に なります。いけや、ぬまの 水の中に いる「やご」が、  
とんぼの子です。





## 4 たのしい 夏

### (1) ほかけぶねと 水ぐるま

よしおくと あき子さんは、海べに きました。白いほを あげて、ふねが かえってきます。ふねは いきおいよく はしり、のっている人は、とても らくそうです。

ふたりは そうだんして、ほかけぶねを 作ることにしました。がようしと、竹ひごと、いたぎれを よういしました。あき子さんは、がようしを ほの かたち に きって 竹ひごを とおして、ふねの ほを 作りました。



よしおくんは、いたぎれで ふねを 作りました。ふたりは ちからを あわせて、きりで あなを あけてほを 立てました。これで ほかけぶねが できたのです。ふたりは それを もって、いけに いきました。そつと 水に うかばせると、すずしい風が ふいてきました。ほは 風を うけて、ふねは きもちよく はしります。風が かわると、ふねは むきを かえます。風のかで、水の上を 大きな ふねが はしれるのです。風が つよいと、早く 走ります。風が よわいと、ゆっくり 走ります。たんぼや、えんでんにある 風車も、風で まわるのです。あき子さんの おかあさんが、「色がみで 風車を こしらえて ごらんなさい。」と いわれました。ふたりは、色がみで 風車を 作りました。

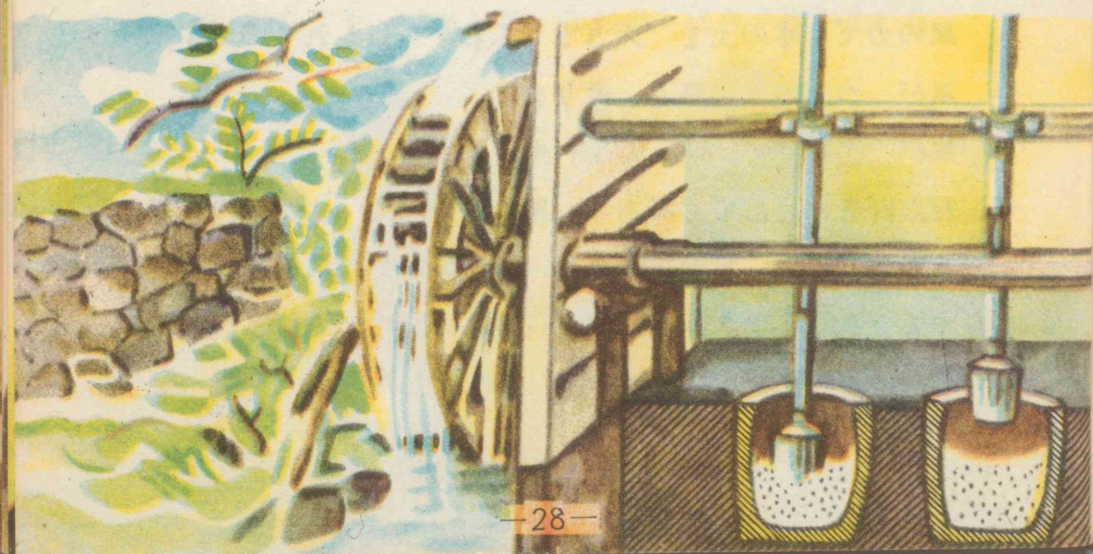


ジャブ、ジャブ、コットン、コットン、すいしゃがまわっています。水が大きなといからながれおちて、すいしゃをまわしています。

すいしゃはどんなしごとをしているのでしょうか。すいしゃごやにはいってみました。すいしゃのふといしんぼうが、ギリギリまわっています。

まわるたびにきねをもちあげて、石うすのお米をついています。

水のかで、こんなに大きなきねをもちあげ、もちあげ、コットン、コットン、お米をついているのです。



ふたりは、水ぐるまを作ることをかんがえました。

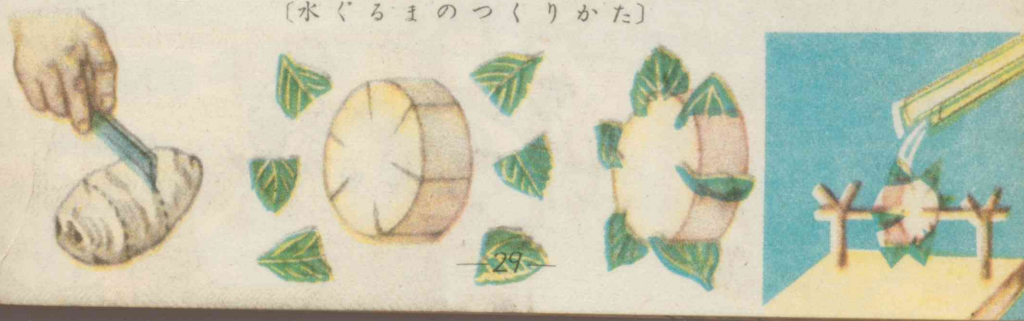
じゃがいもとつばきのはをつかって作りました。

じゃがいもを、小だいのこのようにまるくきって、きれめをいれました。つばきのはも、はんぶんにしりました。じゃがいもに、きったつばきのはをさしこんではねをつけ、しんぼうには、竹ひごをさしこみました。

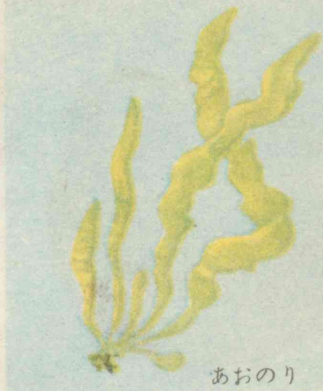
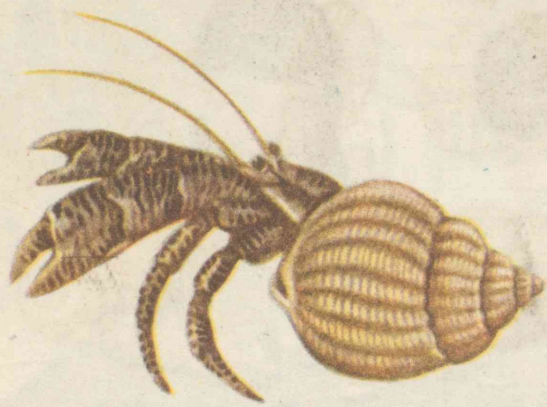
できあがったので、にわにでてためしてみました。

水をいれたバケツをだいの上におき、くたで水をながしました。木の小えだにかけた水ぐるまは、ぐるぐるぐるぐるよくまわりました。つばきのはは、あまり大きくないのがよく、水はいつもはねにかけることが、だいじなことも、わかりました。

〔水ぐるまのつくりかた〕







あおのり

(2) 海や川でとれるいきもの

まさおくと よし子さんは、海へ あそびに、いきました。お日さまが きらきら かがやいて います。海は 青く すんで、波が しずかに うちよせています。にゅうどう雲が、むくむく でています。

ふたりは、かいすいよくを したり、すなはまで、いけを作ったりして あそびました。

しおが ひいたので、かいひろいを はじめました。

水たまりの中に まきがいが いました。ひろってみると、かにのような つめが みえます。やどかりです。まきがいのからにはいっているので「やどかり」と いうのでしょう。



ふじつぼ

とりがい

うみにな

よめがかさ

いそがに

すがい

つめや あしを だしたので、つつくと、すぐ ひっこめました。いけに いれて みていると、からを せおって、はいだしました。ひげに ふれると、また まきがいの中に ひっこみました。

ふたりは、あしを けが しないようにして、いわの上にあがりました。いわには、いろいろな かいが ついて いました。とれやすい かいもあれば、とれにくい かいもあります。いわには かいそうも ついています。

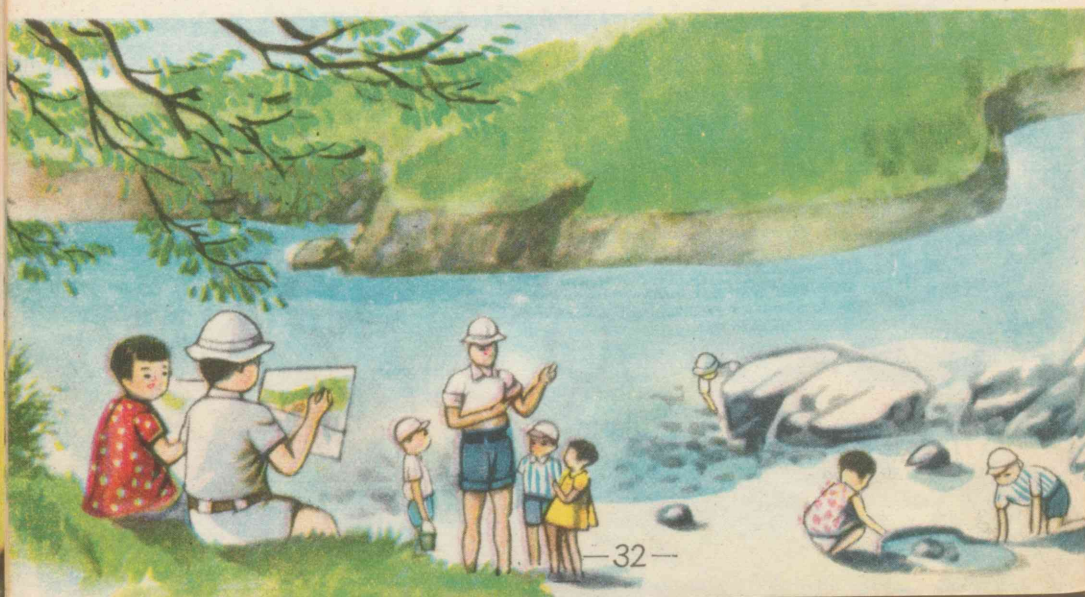


みのるくんと ゆき子さんは、小川へ あそびに いきました。

小川には、さかなの ぼかに、かいや 小さな えびが いました。

かいには、しじみのように すなの中に かくれて いる ものもあれば、かわになのように くいや 石の上を はっ て いるものもありました。かわになが はった あとには、 すじが ついていました。

えびを すくう ときに、えびが びんびん うしろに はねとぶので、うまく とれませんでした。みのるくんは、 なんべんも えびを すくおうとしました。そのうちに じょうずにとれるようになりまし。えびの うしろに あみ を おいて、まえから えびを おうど うまく とれます。



いちろうくんと すみ子さんは、たに川へ あそびに いきました。

川は まがって ながれています。

ふちの 水は すんでいて、そこの方まで よく みえます。

水の中には、はやや、うぐいや、あゆが およいでいました。こんな 魚は、ながれの 早い たに川でも、のぼって いくことが できるそうです。

いちろうくんは、たに川の 魚の しゆる いと、海の 魚の しゆるいと、ちがって いるなど 思いました。



さわがに



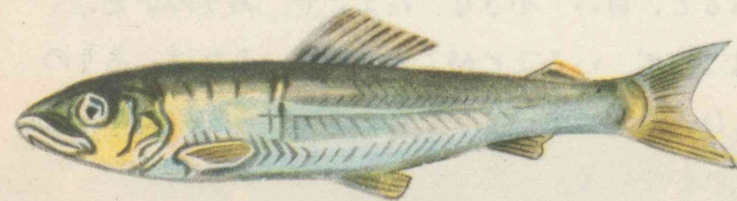
ぬまえび



しじみ



かわにな



あゆ



はや



うぐい

どんこ



### (3) 夏の虫

#### ありの ぎょうれつ

うどんばや みちばたで、たくさんの ありが、ぎょうれつをつくっているのを、みたことは ありませんか。

よく みると、白い 小さな たまごや ありの子を、くわえて はこんで いることがあります。これは、ありのおうちの ひっこしです。すきな えさを みつけて、そこへ、ぎょうれつをつくっていることも あります。

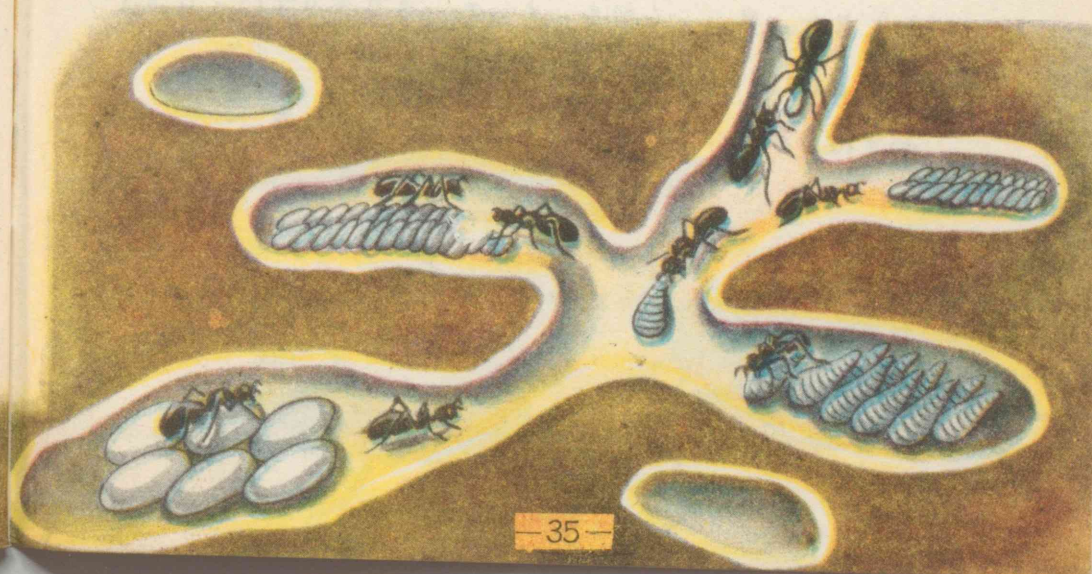
ぎょうれつの でている ところの 石を、そっと 取りのけると、つちの中に たくさん トンネルをつくっています。これが ありのおうちです。トンネルの おくの方には、たまごや ありの子を ならべたり、えさを あつめているのが みられます。みたあとは、そっと もどくように してやりましよう。

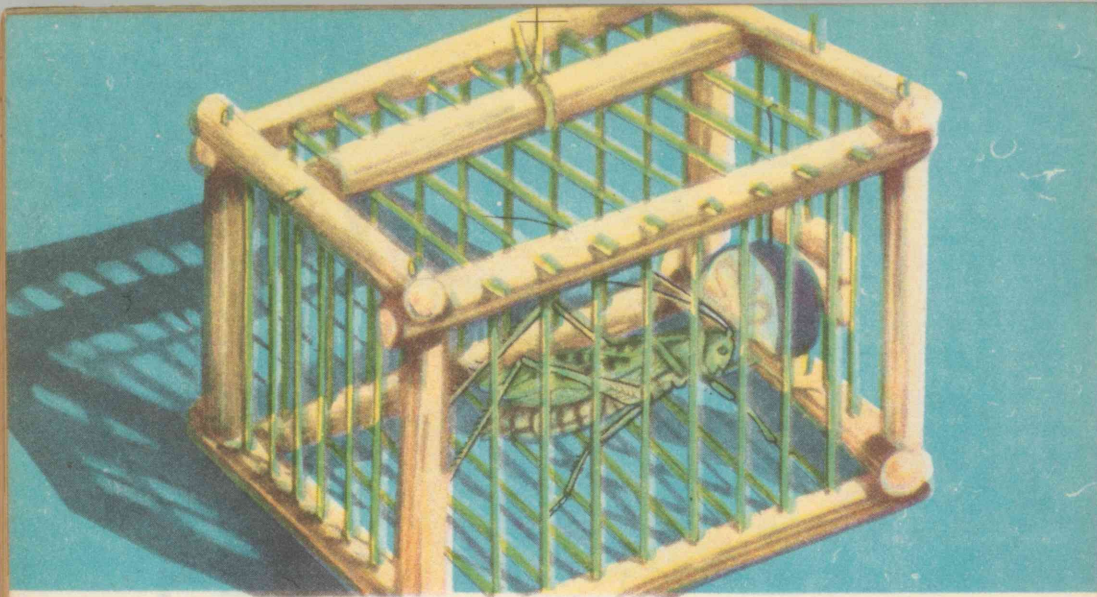
#### ありのおうち

ありの すを、ガラスびんの中に、うつして やりました。すみをぬった ボール紙を まいて、つちの中の ように、くらくして やりました。

ときどき、パンのくずや、おかしのかりを いれたり、つちをしめらせて やりました。

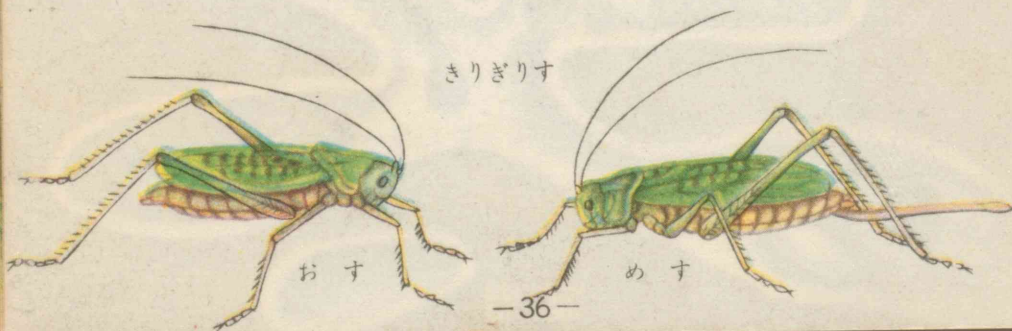
しゅうかん ぐらい たって、そっと ボール紙をとると、ありは つちの中に トンネルをつくったり、おへやをつくって、いろいろな ものを しまっているのが、よく みえました。





### きりぎりす

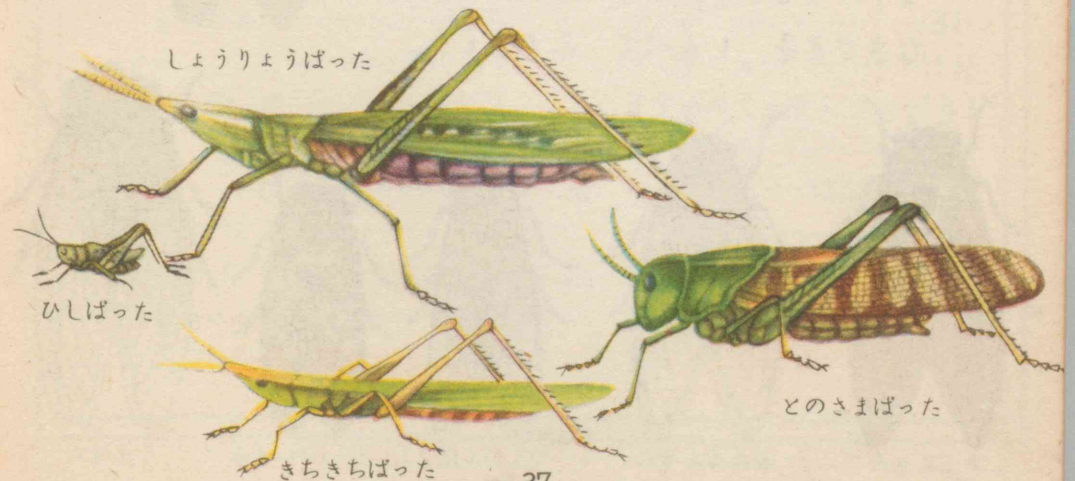
のはらの くさむらで、きりぎりすが ないて います。  
 きりぎりすは、きゅうりや なすで、かうことが できま  
 す。つかまえて きた きりぎりすを、竹かごに いれて、  
 えさを やって おきますと、いい 声で なきます。  
 なくとき、はねを ふるわせて います。  
 おしりに 長い くだを もった きりぎりすは なきま  
 せん。これは、きりぎりすの めす です。  
 めすは、秋、つちの中に たまごを うみます。

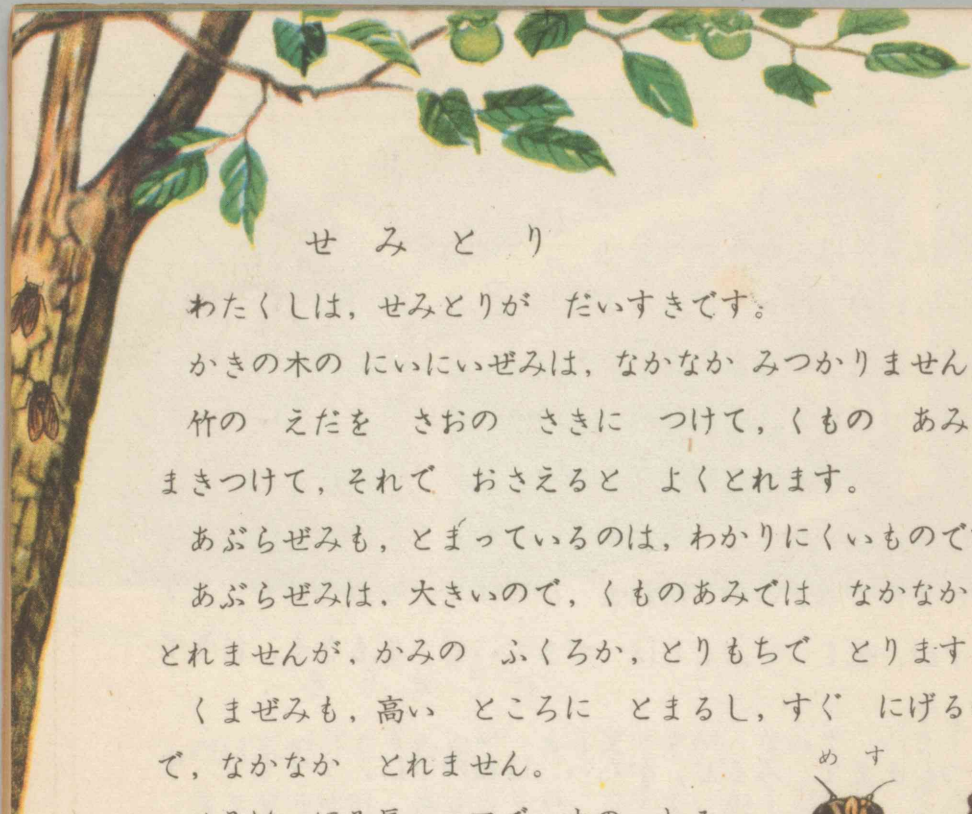


### ばった

のはらには いろいろな  
 しゅるいの ばったが います。  
 ばったは からだの色が、く  
 さや、つちなど、まわりの ものの 色に よく にている  
 ので、なかなか みつかりません。  
 ばったは、大きな あと足で じめんを けて はねま  
 す。また、4まいの はねを ひろげて、とぶことも あり  
 ますが、長く とぶことは できないで、まもなく、おりて  
 きます。

つかまえて みると、かたい はねの下に、うすくて す  
 きとおった はねを たたんで います。  
 ばったは、くさなどを たべますから、かごに いれて  
 かうときは、くさを いれて やりましょう。





せみとり

わたくしは、せみとりが だいすきです。

かきの木の にいにいぜみは、なかなか みつかりません。

竹の えだを さおの さきにつけて、くもの あみを まきつけて、それで おさえると よくとれます。

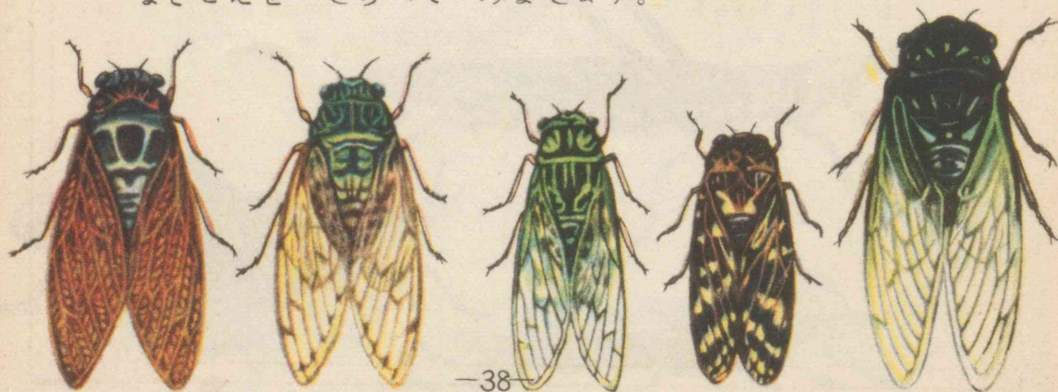
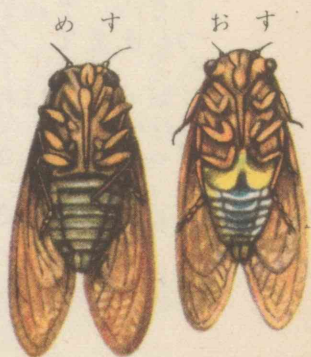
あぶらぜみも、とまっているのは、わかりにくいものです。

あぶらぜみは、大きいので、くものあみでは かなか とれませんが、かみの ふくろか、とりもちで とります。

くまぜみも、高い ところに とまるし、すぐ にげるの で、なかなか とれませんが、

せみは、ほそ長い 口で、木の しる を すうのだそうです。

なくときは、はらの ところが ふる えています。せみは、はらの ところで なくのしょう。いろいろな せみの なきごえを しらべて みましょう。



あぶらぜみ

みんみんぜみ

-38-

つくつくぼうし

いにいぜみ

くまぜみ

て び き

あ	あおのり.....(30)	き	きゅうり.....(36)
	あざみ.....(4)(5)		きりぎりす.....(36)
	あぶらぜみ.....(38)	く	くさどり.....(7)
	あゆ.....(33)		くまぜみ.....(38)
	あり.....(34)(35)		くものあみ.....(38)
い	いそがに.....(31)	け	けつまくえん.....(15)
	いたどり.....(3)(5)	こ	ごしデー.....(13)
	いなびかり.....(23)		こやし.....(6)(7)
	いねのなえ.....(20)	さ	さつまいものなえ.....(20)(21)
う	うえぼうそう.....(16)		さわがに.....(33)
	うぐい.....(33)	し	しおからとんぼ.....(25)
	うみにな.....(31)		しじみ.....(32)(33)
え	えさ.....(9)(10)(11)(34)		ジフテリア.....(16)
	えび.....(32)(33)		しめりけ.....(7)
	えんでん.....(27)		じゃがいも.....(29)
お	おてんきひょう.....(21)		しゅんらん.....(5)
か	かい.....(30)(32)		しょうりょうばった.....(37)
	かいそう.....(31)	す	すいしゃ.....(28)
	かいひろい.....(30)		すがい.....(31)
	かし.....(5)		すずめ.....(11)
	風のカ.....(27)		すずめのとっぽう.....(4)
	かに.....(30)		すみれ.....(2)
	かび.....(21)	せ	せみ.....(24)(25)(38)
	かみなり.....(23)		ぜんまい.....(3)(5)
	かわにな.....(32)(33)	た	たいじゅう.....(17)
き	きちきちばった.....(37)		たうえ.....(20)
	きつねのぼたん.....(4)		たねつけばな.....(4)(5)

た たねまき.....(6)	は はやおき.....(17)
たべもの.....(12)(14)	は やね.....(17)
たまご..(8)(10)(34)(36)	ひ ひしぱった.....(37)
たんぼぼ.....(4)	ひ な.....(8)(9)(10)(11)
ち チフス.....(16)	ひ よこ.....(4)(8)(9)
つ つくつくぼうし.....(38)	びょうき.....(15)(16)
つ つじ.....(3)(5)	ふ ふじつぼ.....(31)
つばきのは.....(29)	へ へちまのたね.....(6)
つばめ.....(10)	ほ ほ.....(4)
つみくさ.....(2)	ほうこぐさ.....(4)
つ ゆ.....(20)(22)(23)	ほかけぶね.....(26)(27)
つゆあけ.....(22)	ま まきがい.....(30)
ど どうもろこしのたね.....(7)	まきどこ.....(6)
どのさまぱった.....(37)	み 水ぐるま.....(5)(26)(29)
トラホーム.....(15)	水 のカ.....(28)
とりがい.....(31)	みんみんぜみ.....(38)
どんこ.....(33)	む むぎわらとんぼ.....(25)
とんぼ.....(25)	む しば.....(12)(13)
な なずな.....(4)	め め(木のめ).....(2)(3)(7)(8)
に にいにいぜみ.....(38)	目.....(15)
にゅうどう雲..(22)(23)(30)	も も み.....(20)
ぬ ぬまえび.....(33)	や や ご.....(25)
は は.....(12)(13)(14)	やどかり.....(30)
ばいきん.....(21)	やんま.....(25)
はこにわ.....(3)	よ よぼうちゆうしゃ.....(16)
はこべ.....(4)(9)	よめがかさ.....(31)
ぱった.....(37)	れ れんげ.....(2)(3)
はブラジ.....(13)	わ わかめ.....(6)
はみがきにつき.....(14)	わらび.....(3)(5)
は や.....(33)	



小理 211

よいこのかがく 二ねんの上

定価 円

昭和25年5月20日印刷

昭和25年5月25日発行

Approved by Ministry of Education

Date May 17, 1950

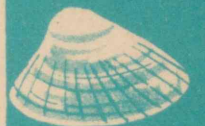
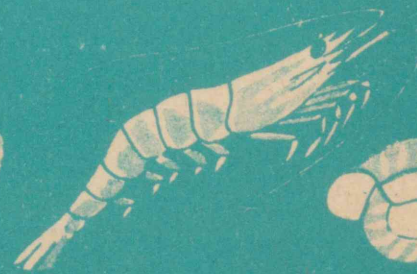
著作者 新科学教育研究会  
 代表者 河野通匡  
 表紙 岩崎良信  
 挿絵 黒崎義介  
 吉岡一

発行者 廣島市南観音町613番地  
 廣島図書株式会社  
 代表者 松井富一

印刷者 廣島市南観音町613番地  
 廣島図書株式会社  
 代表者 大澄君人

印刷兼所 廣島図書株式会社

編集者 津川正美 抄紙 日本紙業協防工場 山本インキKKK  
 精製者 一里山金助 印刷インキ 大阪インキKKK 阪田インキKKK  
 内外インキKKK 広島インキKKK



5



広島大学図書  
0130449641  


広島図書(ヒロト)発行